



■実践内容:

- ① これまでは観察したものをスケッチすることで記録を残してきた。理科において、スケッチの技術を習得することはとても重要なことである。しかし、必要以上に時間がかかり、考察に時間をとれない内容もある。そこで、学習内容に応じてデジタルカメラを用いて写真を撮り、レポート作成に役立てるようにした。
- ② これまでは黒板に教師が図を描いたり、感熱紙に印刷したものをを用いて説明することが多かった。このため、図を描く時間がかかったり、繰り返し使用することができないという難点があった。そこで、プロジェクター、スクリーンを使用して説明をすることにより、生徒の学習内容の理解を深め、発表力向上に役立てるようにした。

■実践成果:

- ① デジタルカメラを用いて微生物や物質の形を撮影し、レポート作成を行った。デジタルカメラを接眼レンズにつけカメラの倍率を上げていくと、実際に見ている状態とほぼ同じ状態のものを撮影することができた。このため、うまく撮影できたものを他の生徒にも見せることができ、有意義な実験・観察を行うことができた。この作業に慣れ、パソコンやプリンターの台数が十分にあると、スケッチの時間より短時間でレポート作成することができ、
- ② 光、音、グラフの書き方、圧力の分野をプロジェクター、スクリーンを使用して授業を行った。今回はホワイトボード用マーカーが使用できるスクリーンを購入させて頂いた。このため、生徒が映像に直接マーカーで書き込みながら説明をすることができるため、発表に対して意欲的に取り組むようになった。また、グラフの作成では、作成する順番やポイントをパワーポイントで説明した。生徒の反応はとてもよく、グラフ用紙から自分の力で表を作成できる生徒が増えてきた。

■実践ポイント:

大津中学校では今年度まで1年生で少人数授業を行ってきた。これまでも操作の習得に力を入れてきたが、さらにICT活用機器の活用により、発表力の向上に努めることができた。